令和 8 年 1 月 31 日
株式会社スカパー・エンターテイメント
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

ナショナル ジオグラフィック 番組審議会議事録

・日時　令和 7 年 12 月 3 日(水)17:20～
・開催場所　東京都港区虎ノ門 1－23－1
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社　27 階会議室
・参加者　審議委員総数　9 名
出席委員数　9 名

（出席委員名）
委員長　村川 幹夫（(株)オリコン ME WEB 編集本部 取締役／編集長）
委員　太田 美千子（(株)講談社 第三事業本部 副本部長兼こども事業部長）
委員　清水 優子（ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表）
委員　須貝 駿貴（学術博士・QuizKnock）
委員　てぃ先生（保育士・ユーチューバー）
委員　名越 康文（精神科医・評論家）
委員　peco（ファッションモデル・タレント）
委員　堀越 礼子（(株)朝日新聞社 常務取締役大阪本社代表）
委員　よしひろ まさみち（ライター・編集者）

（番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社）
小峰 利憲（ディレクター ファイナンス＆プランニング）
白川 英晃（ディレクター
サービス・ディストリビューション／
プラットフォーム＆アドセールス チャンネル
ディズニープラス＆チャンネル）
奥野 祥行（シニアマネージャー マーケティング）
竹内 文吾（編成 マネージャー）
待鳥 雅之（編成 アシスタント・マネージャー）

・議題　（1）ナショナル ジオグラフィックの番組編成について
（2）審議番組『砂漠ライオン：スケルトンコーストのサバイバル』

について

・議事内容
（以下、＊：委員からの意見・質問、→：ディズニーの説明・回答）

（1）ナショナル ジオグラフィックの番組編成について

→12 月の編成ハイライトは下記の通り：
■日本初放送：
・12 日(金)22:00-23:00『カー・SOS 蘇れ！思い出の名車 13』
・24 日(水)21:00～『発掘ミステリー：クレオパトラの失われた墓』
■特別編成：
・5 日(金)21:00-23:00「特集：ディズニー・クルーズラインの世界」
・7 日(日)12:00-15:00「特集：あの日の出来事「真珠湾攻撃」」
・7 日(日)15:00-19:00「追悼：ジェーン・グドール」
・14 日(日)15:00-19:00「特集：南極の世界」
■獣医系作品の新シーズン：
・7 日(日) より毎週日曜 10:00 『スゴ腕どうぶつドクター 総集編 4 』
・14 日(日)より毎週日曜 11:00『ようこそ！クリッター・フィクサー動物病院へ 4』

（2）審議番組『砂漠ライオン：スケルトンコーストのサバイバル』について

・放送概要：
令和 7 年 8 月 14 日 (木)放送
令和 6 年制作　約 45 分　二カ国語版
・番組内容：
世界で最も美しいと称され、約 8000 万年前に形成された地球最古の砂漠の一つ、ナミブ砂漠。その北西海岸に広がるスケルトンコーストは、冷たく荒々しい海流と砂漠がぶつかる過酷な土地。古より「神の怒りによって生まれた土地」などと恐れられたこの地で、かつて多くのライオンが生息していた。だが、いつしか彼らは姿を消した―。
そんな中、ライオン研究者のフィリップ・スタンダー博士は、再びスケルトンコーストにライオンが現れる日を信じ、自らナミブ砂漠に移り住む。そして、過酷な環境の中で生きる 3 頭の幼いメスライオンを発見。親を失いたくましく生きる三姉妹の生きざまを見届けるため、追跡を開始する…。

→厳しい環境に生きるライオンの 4 世代にもわたる家族の生態や軌跡を辿る構成となって

いて、このライオンたちの生態を紹介してくれるのは、自らこのナミブ砂漠に実際に移り住んで、約40年にわたってライオンの保護と研究を続けるフィリップ・スタンダー博士。

→日本語版のナレーションは、俳優・歌手の上白石萌音さんが務める。

＊とにかく映像がすごく綺麗で、壮大でめちゃくちゃ引き込まれた。個人的に映画『ライオンキング』が大好きだということもあり、とにかく子ライオンたちが可愛かった。

＊ライオンの関係性が、人間と通ずるところがたくさんあった。

＊お母さんが亡くなり残された娘ライオン３姉妹たちが叔母ライオンを頼った時には受け入れてもらえず、その後に３頭がバラバラになって、うち１頭だけで再度訪れた時は快く受け入れていた。最初に 3 頭すべてを追い返したのは心から冷たかったのではなく、自身も生きていかないといけなかったためで、何もないところで生きるのは本当に過酷で、そこも叔母の心情から感じられてくるものがあった。

＊ナショジオの大ファンからすると、この番組にはマイナス面は殆ど無いと感じ、さすがだと思った。

＊上白石萌音さんのナレーションもすごく良いと思った。子ライオンがどうなるかドキドキしたが、彼女のナレーションの温かさを感じて、マッチングが良いと思った。

＊娘ライオン３頭が寄り添って重なっている映像が、すごく可愛らしい。この美しい映像と砂漠と海が、何より素晴らしかった。

＊最初から最後まで、フィリップ博士の優しい目があって、彼自身はライオンたちを40年もずっと追ってきて、ナショジオの制作班も一緒に追っているわけだから、これは宝だなと思いながら視聴した。

＊ドキュメンタリーはすごい。ドラマと比べてしまうと、ドキュメンタリーには敵わないと思った。

＊作中で車が映ることがあるが、ライオンたちは、人間たちのことをどう思っていたのだろうか。共存していると思っているのか、そのあたりにもきっとドラマがあって、そういうところも見たいと思った。

＊３頭の娘ライオンたちが並んでいるところは、ポストカードにしてほしいと思った。

＊気持ちから入ってくれるナレーションは、スーっと入ってくる。他人事の様に読むのではなく、このキャスティングは最高だと思った。

＊この作品は、本当に全ての親たちが見るべき教育的介入についての究極的なケーススタディだと思う。

＊最近の親御さんは、優しいが故に心配がすごく先回りしている。１年ほど前にあった出来事で、子供が算数を苦手になったら困るから既に教えていると言うが、その子はまだ２歳で歌の様に九九を言えるようになっている。まわりの親御さんはすごいと言うけれど、専門家からすると、あまり意味がないと思うが、親御さんは不安が先に来ているから教えている。子供のためというより自分の安心のために教えている節がある。今の時

代の親は一定数、自分の子供をブランドバッグみたいに使っているところがある。
＊この環境下の中で、ライオンたちが現代の人間の親たちのような子供たちへの関わり方をしたら、多分彼女たちは全滅するだろう。親たちが与えるのは、魚を与えることではなく釣り方を教えているという話と逆で、現代の親たちは欲しいものの取り方ではなく、欲しいもの自体を与えてしまっている。
＊すべての親御さんに、この作品を見て一旦落ち着いて欲しいと思う。お子さんの行動に手を出すべきではないということを学ぶことができる作品。
＊自然ドキュメンタリーでここまでの予算と期間をかけた作品を作れるのは、ナショジオ、BBC、NHK ぐらいしかないだろう。
＊どこで誰が撮っているのかという点が気にならないくらい自然。
＊自然の生物や植物をちゃんと捉えて見せてくれるところが一番の重要なポイントであり、特徴でもある。
＊ぜひともずっと続けて頂きたい、日本の編成には絶対に入れて頂きたいという番組の一つだと思った。
＊猛獣系の番組だったという点で、今年の冬はクマをやってもよかったのでは？
＊これと合わせて、プレデター系(ナショジオで所持している番組)のドキュメンタリーを集めて編成してもよかったのでないかと思う。
＊フィリップは、３頭の姉妹が死ぬかもしれない状況でも絶対に手助けしないのがルールで、あくまで生態系を調べることだけを自分に課しているが、40 年見てきたとなると情も移っているはずで、そこに重みを感じる。
＊ある意味では苦行だと思う。長年の積み重ねが出せるチャンネルが絶対に必要で、そういったところも限られている。BBC も、このレベルのものは年１本撮れるかどうかで、皇帝ペンギンなどネイチャー系が流行ったときも、ナショジオの制作班が BBC に出向して撮るという形がよくあり、ここがスタートだから残さないといけない。
＊生命系の科学研究は、人間社会にどうフィードバック・役に立つかがとても見えにくい分野のため、なかなか応援されにくいが、それに対して、物理や化学は分かりやすくフィードバックがされる。だからと言って研究をせずに生態系が壊れてしまってからでは取り返せない。科学者たちはそれを分かっているがゆえに SDG s を進めているが、一般の人たちがどう分かっているかは難しい。
＊生態系を維持していくためには、生物系の研究を、無償の愛で見る必要がある。美麗な映像や心に染み入るナレーション、編集やストーリーで訴える番組は、継続的に人の目に触れる必要があると感じた。
＊サイエンスコミュニケーションの中でも、まずは見て感動してというところからで良いと思う。後から理由は付いてくる。
＊TV で取り上げることが大事。これは大きい画面で見てこその作品だと思った。
＊最低でも 7 年追っていて、はたして何年追うことになるかも分からない中で、止めずに

継続するには、同時にどうにか何らかの方法で稼ぎ続けなければならないということも考えさせられる番組。
＊本当にとにかく映像が素晴らしく美しくてナショジオの作品はどれも映像が綺麗。特に映像の美しさとポエティックな感じが全体を通してあり、本当に引き込まれる番組。
＊ライオンと聞くと、サバンナに群れでいる百獣の王というイメージがあったが、砂漠で孤独でこういう命のあり方というのがあるんだなと感じた。
＊出版では、情報を詰めるために様々な説明をするが、この作品では、情報はあるが供給量は少なく、あくまで映像と世界観で伝えている。生命や根源的なテーマを考えさせられるが、それがエンターテイメントになっている美しさがまた素晴らしい。
＊フィリップ博士のたたずまいが素晴らしく、そのドキュメンタリーもぜひ見てみたい。
＊3 姉妹ライオンの数奇な運命が、事実は小説より奇なりというか、まるで映画の様なドラマチックなストーリーに思えて感動した。
＊埋没するような没入感のある映像だった。この子ライオンたちは水さえも飲んでいないことに驚いたが、安直に感情移入してはいけないと思った。そんな簡単なことではなく、叔母さんが断腸の思いで最初は 3 頭丸ごとの受け入れを断り、なんとか 1 頭は受け入れたが、すさまじい自然の摂理の中で受け入れたのではないか。
＊人間の感情移入によって、人間の常識からでしか見られない教養主義を彷彿とさせた。「なぜこんなに小さい命が、水も飲まずにこの世界で生きているのか？」というようなことが頭にたくさん浮かび、自分の常識を打ち壊されるような映像で本当に感動した。
＊この作品の中に様々なストーリーがあるが、それもあくまで人間が考えたことで、野暮である。
＊フィリップ博士はどう自己コントロールしているのだろうか。冷酷なスタンスもあり、一方でとても愛情深い面があり、それが両立している人間に会ったことがない。どういう人生を歩んできて、ここに至ったのかを知りたいと思った。
＊教養主義に走らなかったからこそ、深みがあって結果として、極上のエンターテインメントになっているのがおもしろい。意図的なエンタメという部分も作りとしてクオリティを高めていけば、最高の良質な作品になるが、空や無の流れから作られる作品も結果として極上のエンタメになるのも未熟で面白いと感じた。
→本作は、もともとのナレーションを男性の声で制作しているが、通常はこれを女性に変更するといったことは、あまり行わない。だが、本作に関しては、作中のフィリップ目線で見守る感じなどの温かみを出そうと思い、イメージ的に上白石萌音さんをキャスティングした。今回はそれが作風と上手くマッチしたようで、その点を評価して頂き安心した。
→3 姉妹ライオンのうちの一頭であるチャーリーのドラマについて、昨年『ダーウィンが来た』で取り上げられていたことについても触れて頂いたが、約 10 年前に、フィリップ博士が前の世代のライオンの姿を追った作品もあり、それだけ長い年月をかけてライオ

ンを追っている姿があるので、いつの日か彼を題材とした作品も作られるかもしれないし、引き続き、この先の世代のライオンも見守っていくかと思うので、我々編成チームとしても心待ちにしている。

・審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和 7 年 12 月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：

令和 8 年 1 月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上